

ホテイシダ *Lepisorus annuifrons* (Makino) Ching

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。自然度の高い森林に依存する温帯性の植物で、県内では生育地が少なく、また伐採などの影響を受けやすい。

【形態】

夏緑性のシダ植物。根茎は横にはう。葉柄は緑色～わら色で長さ 3～5cm、葉身は単葉で披針形、黄緑色、基部はくさび形、多くは中央より下で最も幅広く、先端に向けて次第に狭くなり、大きなものは長さ 20cm、幅 3cm くらいになるが、愛知県のものでは長さ 10～15cm 程度である。葉縁は不規則に波状になることが多い。胞子のう群は円形で直径約 2mm、中肋よりに 1 列に並んでつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (芹沢 67368, 1993-9-22)、2 豊根 (芹沢 44563, 1986-9-30)。西：5 稲武 (塚本威彦 2346, 1997-7-13)。4 津具 (萩太郎山, 岡田善敏 s.n., 1948-7-4)、19 旭 (伯母沢, 大原準之助 s.n., 1964-8-26) で採集された標本もある。

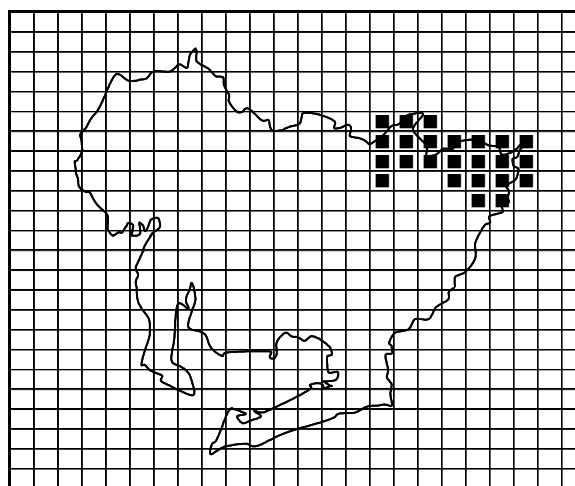
【国内の分布】

北海道、本州、九州の温帯域に分布する。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯林のブナ、ミズナラなどの老木の樹幹に着生する。コケの多い岩上に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

小形の植物だけに、個体数階級 2 でも量的には少ない。過去に森林の伐採により激減し、最近でも夏期の高温乾燥傾向によって次第に衰退して、現在に至っているものと思われる。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような自然度の高い森林は、愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。

【特記事項】

ウラボシ科は熱帯・亜熱帯に多く、本種のような温帯性で夏緑性の種は数少ない。和名は、幅の広い葉を布袋に例えたものである。

【関連文献】

保シダ p.157, 平シダ p.265, 学シダⅡ p.462.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1981. 日本のシダ植物図鑑 2:374-380. 東京大学出版会, 東京.